２０２２年（令和４年）　８月７日　日曜日
デーリー東北　２３面　掲載

学生コーチで夢実現

光星きょう甲子園初戦

台湾出身 元選手趙さん（3年）
献身サポート、チーム鼓舞

3年ぶりに全国高校野球選手権に出場する八戸学院光星。台湾出身で3年生の学生コーチ趙崇廷さん(18)は、夢の切符をつかんだナインを近くで支えてきた。「強打の光星」に憧れて海を渡ったが、壁は厚く選手の道は断念。悩んだ末に選んだのが、日本一を目指す仲間をサポートする裏方だった。「野球を精いっぱい楽しんで」。甲子園出場の〝陰の立役者〟は、大一番を前にしたチームメートに思いを寄せる。（福田駿）

部員を鼓舞する趙崇廷さん（中央）。学生コーチとしてチームを支える＝6日、兵庫県西宮市内

小学校5年で野球を始めた。学業への影響を心配した両親を説得し、通っていた小学校のチームへ。中学校でも競技を続け、「毎日が最高だった」。

将来を大きく変えるきっかけとなったのは2019年の夏。台湾で放映していた甲子園の試合で、圧倒的な攻撃力を見せる八学光星にくぎ付けになった。

「自分も入りたい」。母親は案じたものの、学生時代の海外経験が重要と考えていた父親が背中を押してくれた。その後、試験に合格。憧れの野球部にも入ったが、待っていたのは想像を超える困難だった。

自身が打ち込んできた野球とは異なるスタイル。バントやサインプレーを駆使する緻密な展開にも衝撃を受けた。特に苦労したのが日本語でのコミュニケーション。捕手だった趙さんにとって、投手とうまく意思疎通ができないのは致命的で、努力を重ねてもライバルとの差が縮まることはなかった。

「自分はチームに必要なのか」。思い悩み、出した答えは裏方への転身。仲井宗基監督からは何度も反対されたが、「みんなの力になりたい」と決意は揺るがなかった。現在は打撃練習のタイムキーパーなどを担当し、部員を献身的にサポートしている。

〝夢の聖地〟への思いは学生コーチになっても変わらない。青森大会の決勝を制した瞬間は、込み上げる感情を抑え切ることができなかった。

甲子園では、アルプススタンドから見守る。「エラーやミスで落ち込んでも笑顔でいてほしい。野球は本当に楽しいから」。趙さんの思いも乗せ、ナインは7日、創志学園（岡山）との初戦に臨む。

気合十分「ナインと共に」応援団出発

応援のため甲子園へ出発する生徒＝6日、八戸学院光星高

全国高校野球選手権大会で7日に初戦を迎える八戸学院光星ナインを後押ししようと、吹奏楽部やチアリーディング部などの生徒ら約300人が6日、八戸市の同校をバス8台で出発した。一行は7日午前8時開始の試合に合わせ、兵庫県西宮市の甲子園球場に到着する。

同校で行われた出発式では、中村良寛校長が「甲子園に行けない人たちの思いも背負って、アルプススタンドで応援してほしい」と激励。応援隊代表の田名部真心生徒会長（3年）が「選手と共に最後まで精いっぱい戦いましょう」と呼びかけた。

この後、一行はバスに乗り込み、教員らに見送られて甲子園に向かった。

応援に参加する吹奏楽部の佐々木萌香部長（3年）は「甲子園で演奏してみたい思いもあって入学したので、最後の夏に念願がかなってうれしい。精いっぱい〝光星サウンド〟を響かせたい」と気合十分だった。（澤田淳一）

デーリー東北新聞社提供